

【実践事例（14）】

震災伝承施設（みやぎ東日本大震災津波伝承館）の訪問等により震災の教訓を学ぶ取組

川崎町立富岡小学校

■ 6 学年・総合的な学習の時間

5 学年時から防災の学習をはじめ、6 学年の総合的な学習の時間で東日本大震災を調べている。実際に被災地域を訪問することにより、震災による被害の大きさを実感し、防災意識を高めていきたいため、当施設を訪問した。

施設からの説明、分かりやすい映像や資料の展示等の見学を通して、震災のことや津波のことを学び、児童は「学んだことを絶対に忘れない」「自分の今できることを実行する」「命を守る」という防災意識を心に刻んでいた。

また、石巻市震災遺構門脇小学校も見学した。

【児童の感想】

- ・小さな揺れの地震でも気を抜かず、また、揺れがおさまっても気を付ける。
- ・地震や津波は千年以上前から起こっていたことが分かりました。
- ・震災で多くの命が奪われたことで現在様々な対策が考えられていることが分かった。



大崎市立古川南中学校

■ 3 学年・総合的な学習の時間

東日本大震災から11年が経過する中、学校での防災訓練や防災教育は様々な災害を想定して行われているが、被災地の様子や復興の状況を実際に見学することで、生徒の防災意識を高め、「生きる力」を身に付けさせたいことから当施設を訪問した。

併せて、伝承館がある南浜津波復興祈念公園の見学の他、石巻市震災遺構大川小学校及び門脇小学校も見学した。

【生徒の感想】

- ・どんな地震でも甘く見ず、的確な行動をとれるように、事前に防災グッズを用意したり、避難場所や避難経路を確認したりしたい。
- ・実際に感じたものを、家族や友達と共有して分かってもらいたい。どんな災害でもちゃんと対応できる準備をしておきたい。



村田高等学校

■ 1 学年・総合的な探求の時間

防災・減災の学習するため、当施設を訪問した。

解説員から、地震や津波の発生メカニズム、日本でこれまで起こった地震や津波の歴史を学んだ。また、伝承館は、建物の高さが東日本大震災の津波の高さを同じにしており、津波の規模の大きさを体感できる作りにもなっていた。

震災での県内の被害についての解説と、各地域で被災された方の映像などを通して、防災・減災についての理解を深めることができた。また、石巻市震災遺構門脇小学校も見学した。

【学習後の状況】

学校の避難訓練では、真剣な態度で訓練に臨み、生徒による水消火器の訓練では、大きな声で周囲に危険を知らせるなど、防災・減災の意識の向上に結びついている。

